日本文化原論 永続思想 主体性学

令和 8 年 11 月 12 日

横山 俊一

1)概論

1-1 答えと思考、結果と過程

例えば、増税すべき減税すべきである。結果性に対し過程を示し答えと判断に至る考えを纏め表す思考が要る。論旨の集約、

1-2 評価性と扱い

個々の現象への一時的な心象と表現に偏り、結果と過程を簡潔に纏める考えが乏しいと健全な生産者の資質が見られず正よりも負の心象が増し削減や排除、無関心の因果が働く。健全な表現、人間性人格性が見られず、粗末な生、無用な対象負の対象、要らぬ評価と作為が進む。

1-3 現象特定、関心観測、評価、制約、論旨の導出

個々の現象を気ままに、無責任的に発言し、外界を惑わす歪化した性格は正より負の質感が増す。問題性に対し制約要素が整理される。施策の一種となり対処と予防の効果を生む。

2)因果分析、局所と短期性

2-1 部分指摘、総括性の弱さ、気まぐれ、露出狂、荒れた生

マスコミが悪い、政治が悪い、教育が悪い、法律が悪い、宗教が悪い、金狂いの金満経営が悪い等々、個々の表現を気ままに表す。対立性の増す不調和と破壊の軌道を押し進める。

2-2 感覚過多と部分最適、抽象過多の歪性

刺激と効果の過剰、即効、短絡、部分最適という感覚性の偏り、なんでも力で押し通す物理力の異常な活用と弊害性、「平等や自由、民主主義、」「戦争と平和」などという抽象観の形成と活用に際し中身の整理された皮膚感覚に伝わる直接間接の因果と考えを表す態度が望まれる。

2-3 自律性、犯罪病理性

産出と検証と改善の習慣、生産範囲と自律性、権利義務均衡、
自己不在性、破綻的性質、健全な自己性、

Created by Universal Document Converter

3)特定領域、構造と中期性

3-1 原因と分析、因果の総括

こうした事態の原因は根本性と基礎性が悪いと原因付けられる。共通的土台性、基礎性が脆弱で二次三次の表層事象が作られる。

3-2 力の支配、肥満と堕落、犯罪病理性

物質的力、構造性に依存し対象を強引に従えさせる力の支配、意味不明性の言葉や概念と表現を広げる肥満と堕落性、非人間的な性質を深め広げる。習慣が性質を作り直接間接に因果を広げ特定領域と全体性の慣習や秩序を作る。破壊と粗雑な生の基調や軌道を進行させる。

3-3 生の病み、生命、宗教、文化性

裏でこそこそ盗む病理、慢性化した生の不良、生命人間観の欠陥を表す。力と責務の不均衡、破綻的な力の支配、部分最適、偏狭、羅列断片錯綜重複の表現、思考停滞、頭と体と精神と感性の分断、活動習慣の歪性、犯罪病理、局所と構造と性質、短期中期長期の因果、

3-4 特定分野の活動と成果、判定

専門的な研究と産出の成果が弱いと歪な現象に箍のかからぬ事態を生じさせる。狭い意味の利益追求、統治と政治に偏り生命と根本を土台にもって一巡的完結の周期と体系の持続する広い意味の生命や人間観と統治政治の観点が萎む。根幹の痩せた部分最適の領域と現象を生む。

3-5 理想と現況と方法、検証改善持続

教育性の主導的な立場を有する特定領域の活動と成果が、各種現象となり表面化する。どのような人間像や人格観を基本的な理想に求め作る態度と活動の習慣にあるか、生命と領域の基礎と基軸と全体の概念形成上の問題、概念と運用上の問題、歪な流通性、適正な働きを遂げる流通か、検証と総括、事後の改善と持続的完結の周期と体系の仕組。

3-6 定常的仕組：領域観と循環系、観測評価、制御性

教育系：教育基礎、法務、総務、経済系：財政、金融、マクロ、
宗教と哲学、教育と経済、政治、地域、産業、
構造周期体系：基礎制御全体、縦割断片不整合、分化と統合の適正、

Created by Universal Document Converter

4)因果の深堀、本質性、性質と長期

4-1 深耕解明、主観客観、歴史理論、私公、過去未来、静動

4-1-1 主観、感情、相対性、動物的、歴史、仏性

私怨、一過的場当たり、小細工ギャンブル、無思慮ロボット、短絡即効、陶酔、急変、物理受動過多、見栄、期待効果不均衡、制御不能自律喪失、支離滅裂、表裏乖離、不信と断絶、負の情念の広がり深まり

4-1-2 客観、理性、普遍的不変の要素、人間的、理論、神性

正々堂々、清々しさ、健全な感性概念精神身体、産出と検証と持続、根本且つ全体大局観と個別特定、表裏内外の一致、信用持続、因果観、

4-1-3 文学神話宗教、哲学文化(哲学科学技術)、活動習慣、人間

特定物語、特殊的ストーリー、歪な全体性と文化観、気分転換開放性と基礎基軸性、思慮概念精査、産出検証習慣、言行整合、落ち着きある精神と産出制御、生物物理と文学と哲学文化の相関、定常非定常と異常、歴史理論、動態静態、仏性神性人間の適正、想像創造に向かう。

5)根本基礎、全体大局の分野、短期中期長期の相関

5-1 生命人間学

変わりづらい現象観や活動法則、創造原理、分化と統合の規則性などとして集約の表現が作られる。人間像や人格観に抽象される。人間とは、主題と答えが示す生命人間学という特定領域に整備される。

5-2 概念見識性

整理、分類、統合、交通整理、流通性、思考、概念、見識性、

5-3 因果と思考、評価性

結論と過程、直接間接、根本原因、生滅、快不快善悪美醜、真偽正負

5-4 現象観、活動観、創造観、分化と統合の原理

主題性：○○とは、△△である。現象性：これに対し現況は××である。△△に向け□□をする。□□とは、何時何処で誰が何をどうする。意図と結果の検証：どうなった。施策の有効収益安全成長健全、

Created by Universal Document Converter

5-5 産出性：個別特定全体

個別施策と全体性、創造全容と部分の相関、短期中期長期の因果想定、

5-6 基礎性：活動と習慣

休息と働き、緩和と緊張、割合の適正、活動と産出の良好性、食べた、寝た、栄養補給、休めた、頭がすっきり、良い産出と働きを生む。情動と精神神経の安定、良好な思考と産出、良好な感受性、再生産と持続、基軸的活動習慣と娯楽気分転換とリスク管理、3 つの側面とバランスから好循環と負の循環系を生む。

5-7 生の枠組性

変わりづらい価値観、時々の諸状態の変動と適正化の作為、根本性、基礎性、個別性特定性全体性、体系周期持続、抽象理念、動静、因果、

5-8 基礎科目性の産出、役割

原因と結果、因果、分化と統合の原理、変わりづらい創造法則が作用する。健全な表現や生産の作法を共通化し根本と基礎の適正が揃えられる。基礎科目性の役割と効果性の認識を生む。完全性の追求という思考が無くなると不完全性が増す。樹木と人間、神仏と人間の相関、

5-9 主観と客観、思想と世界観と活動性、動静

感情が生まれない動物はいない。主観的要素を生みながら長らく良好な世界を求め自他の再生産と持続を思考し概念や見識を作る想像と創造を生む。客観なる観点と運用が進む。直線的一方向の上下性の世界観に留まるか、相互的循環と持続の世界観と実現に向かうか、理論：永続思想と主体性学、経験：日本文化原論、動静：七色の虹の架け橋、

5-10 売国性、健全な論理と行為、習慣と性質

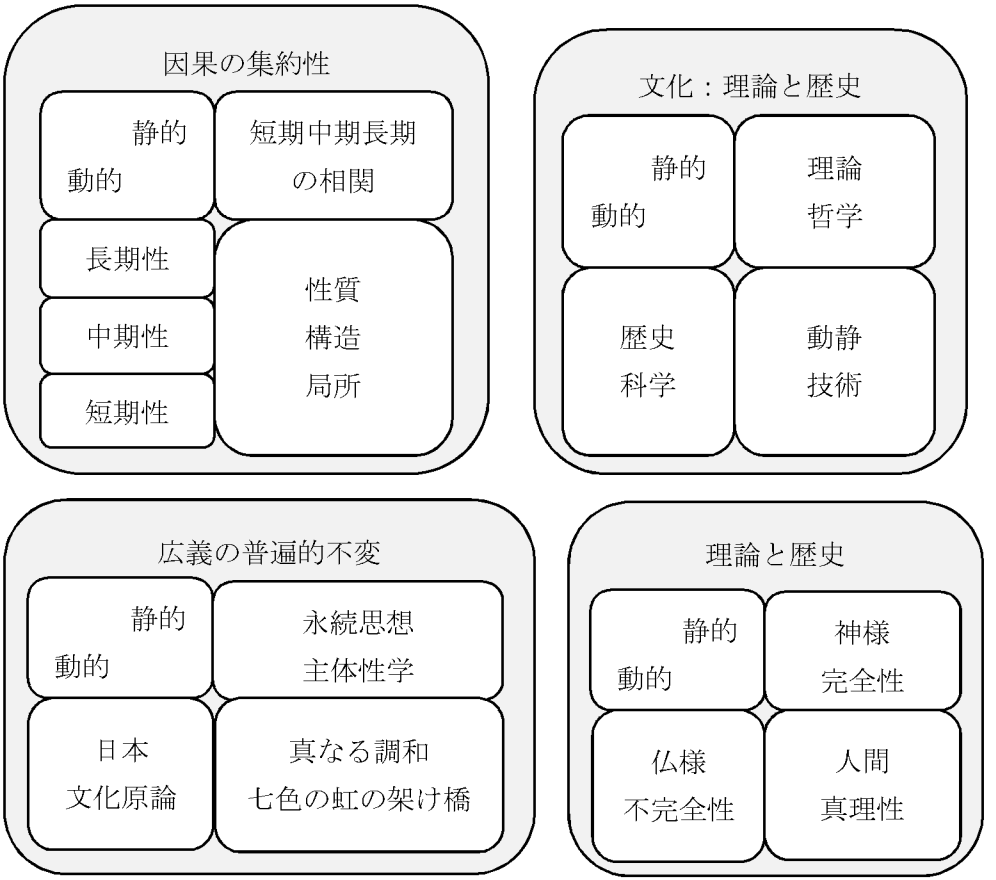
他国の利益と私的利益を優先し、自国に損害を与える性質は自国の中心や中枢、基軸には適さない。歪な偏りの感受性と理論と行使の姿を見る。自国の利益には自他を含む利益を問いながら概念世界観を引き出し自他の特性を観測し自立と協業の持続に向けられる。

5-11 根本の歪性

妙に他地域の様式に被れ自国を見下し目新しさと小細工の差別化を図り、優越願望の激しい発想と思考と作為をもって自存と成長を企てる性格は不

Created by Universal Document Converter

快が増す。根本に欠陥が映る。どこの空間にいっても削減と排除の対象を招く。慢性的な盗みや詐欺、暴力、基礎の弱い躾と行儀の悪さを伝える。肥満な保守と破壊的な自由、標準と過不足の相関、

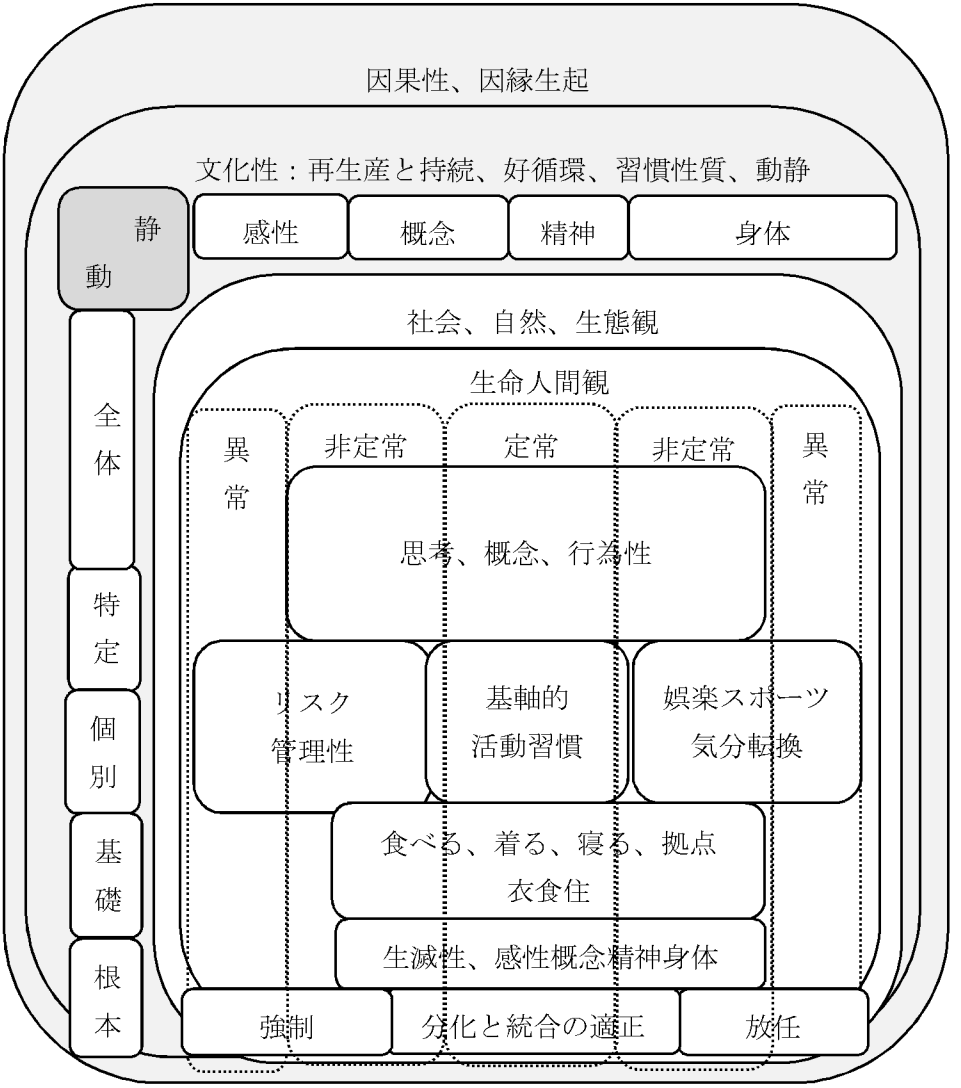


5-12 創造力と社会性と自然性、味覚、色彩

作り手への心象が悪いとかわいいオカメも負の認識が生じる。旨い料理も喉が通らない。製造と流通の分断、資本と経営と技能の分断、
創造力と社会性と自然性は切り離せない因果を生む。「金に色がつかない」味覚の減退や色彩の喪失した感覚と感性に戸惑いや疑問が起こらない状態は正常に映りづらい。感性と概念と精神と身体、生命と人間、政教分離という抽象観に深みある考察と哲学の見解をもって現象の良し悪しや作為を投じる性格が望まれる。無思慮物理性に対し「宗教、倫理、道徳、哲学、

Created by Universal Document Converter

文化、戦争、平等、自由、平和、因果」等の抽象観について、理解と納得、共感の増す解釈を引き出す創造が起こる。



Created by Universal Document Converter

6)生の破綻と対処と予防

6-1 人間の責任

責任の所在は、どこにあるのか。これがはっきりしない事に不健全な生産性が現れる。機械がやった事だから。人の手を離れた生産の機械化や自動化と効率性が増し道具や装置を用いる人間に責任が無いかの感覚を生む。

6-2 生命人間観と特定技能

生命人間観の狂った専門や部分最良の感覚が生じる事に問題認識が高まる。AI がやった事だから仕方ないなどという感覚にないか。道具や装置、コンピューターを選択し活用して AI による産出が成された。その産出から被害が生じた。さて、だれが責任を負うか。これがはっきりしないようでは道具や装置を用いる態度に適正を欠く。

6-3 一巡的完結の周期と体系と持続

感性と概念と精神と身体の一巡的完結の周期と体系と持続観に生の原型性と創造法則や人間観の変わらぬ標準観念が生まれる。道具や装置はこの一部一面を担う配置にあり、最終的な責任は用いる人間にある認識が弱いと生命と産出の欠陥を招く。コンピューターが勝手にやった事だから私に責任はないで済むかの認識であると生命の破綻的な性質を伝える。

6-4 分断性、制御不能、自律の喪失

製造と流通の分離、資本と経営と技能の分離、使用者と労働の分断、
人のパーツ化、使い捨て、派遣などという制度が招く生命観の歪性について根本性と基礎性の認識を正す作用が弱いと箍のかからぬ財欲と暴走が起こる。金狂いの金満経営、生の破綻性に問題認識を作る事が重要となる。

6-5 サイバー犯罪

身元を隠し、遠隔から操作するサイバー犯罪が起こす問題性の大きさが生まれる。生の欠陥に大きな問題認識がないと箍のかからぬ病理を増大する。大きな負の影響、根本性の破綻について重い刑罰を規定することは少なくとも必要である。病理質が広がり深まらぬよう予防性の作為にやった場合は重刑になる規定が要る。

Created by Universal Document Converter

6-6 見識、概念、知識、政策、技能

「見識概念、知識、政策、法整備、技能と影響、」という直接間接の因果と観点が整理される。生の一巡的完結の周期と体系の持続に変わらぬ生命観と創造性と人間観を産む。標準観が崩れた様な感覚が増す事に、生の根本性の壊れた創造力が生じる。責任の所在が曖昧化したまま、歪な欲望と充足の形態が作られることは、大きな問題性を作る。

6-7 ピンハネ、中抜き

ピンハネ、中抜き、流通で糧を得る事が常識化したような標準性の壊れは、深刻な生の破綻である事の認識を揃える姿に適正を生む。狂った病理を常態慢性化した常識が進む問題を強調する態度が起こる。

6-8 根本と基礎分野

哲学等の根本や基礎性を扱う立場にあれば、生の深刻な歪性について問題性を強調し長期周期性を破壊する病理を防ぐ態度が生じる。自覚の弱い慢性化した病理質は重刑を与える事を必須にする。

6-9 全体大局性

見識、概念、知識、政策、法制度、技能性と効果影響、長期中期、短期、性質と構造と局所の観点と内容を問い同一性の尺度を揃え因果の総体と適正を作る集約観を必要にする。

6-10 生の破綻性、重刑

生を破綻させる認識が起こらない狂った対象は放置できない。対処性と予防性の作為を生む。世界の常識を崩すことのなき態度が起こる。馬鹿は甘く考えて金に狂い暴走する。損害賠償と牢屋に長らく拘束し更生の機会を作る必要が生まれる。

Created by Universal Document Converter

7)表現の自由

7-1 実務、ライン性

非力な個々人性の発言に異様に神経質になり、強権を発動する権力行使は、自己への自信の乏しさと情動の不安定なヒステリー性の心象が生まれる。ライン性の配置を有し、堂々と基軸の活動と産出を図り、検証と改善を行う態度にあれば、信用信頼の関係性が起こる。

7-2 批判、歪なクレーム、冗談、ユニーク性の範囲

妙な外野的な存在の言動に過敏反応を作るまでもなく、非力性への過度な監視や縛りに意識と作為を集めるまでもない。なぜそんなにヒステリーになるのかに問題認識が進む。特定の身元を明かし行う表現の自由は尊重に適正観が生まれる。適当な冗談、ユニーク性の範囲、

7-3 マスコミ性

政治は権力を持つ、それを監視するマスコミ性の作用に一定の肯定感が生まれる。マスコミ性にも強い権力性の質実が起こる。無限から何を限定優先して観測と伝達を広く実施するのか、人々への影響が高い。

7-4 視聴者

このマスコミを監視する視聴側の見識性が増しマスコミ権力の適正に回る。個々の視聴者に健全な概念や基準尺度を植え付ける教育作用があり、あまりに格差性の広がる構造を予防する。

政治、行政、経済、産業、マスコミ、視聴者、教育、宗教

7-5 教育性

知識の有無程度、基準概念の集約、分化と統合、生命と領域性、持続的な産出と検証と改善、健全な感性と活動習慣、動静の適正、創造観、人間観、生命観、社会観、自然観、生態観、思想世界観、創造の包括観、成長過程論、文化観の抱き方、示し方に、理解と納得共感が増し教育の主導性に尊敬と学習の態度が進む。「見識、概念、知識、政策、技能、」の相関が作られる。基盤性に厚みが作り出され、産業経済性、政治行政、報道マスコミとの格差の広がらぬ領域性を遂げる。

Created by Universal Document Converter

8)宗教性、宗教観

8-1 心理性とは

心理学者と名乗りながら良好な心理が作れない。こうした質実をどのように解釈するか、頭で理解しているつもりが実際化できない。机上に偏ったペーパードライバーと言うべきか。説くこと自体もなんだかよくわからない。情動不安と混乱した頭の質実を表す。高い肩書や位を与えて良いか。

8-2 知識性の偏り

宗教の専門家、知識の詳しさを評価するか、その知識は人々の理解に至るか、活動に有益か不毛な知識か、意味不明な知識や歪みの激しい宗教観か、定常的な生活場面から感じ取られる生の質実から外れ行事や催しという面を宗教の主たる活動に映すか、タコツボに入り一向に外に出てこない専門の不健全にないか。修士や博士という肩書は世間一般の観点からどんな意味を持つか。特殊分野の偏狭的な基準に陥り負の影響に働いていないか。こうした対象からプラスの作用を得られるか。不毛性に留まらず悪しき慣習と影響に働く実態にないか。生命、性根の歪性を広げ深める専門や総合性にないか、

8-3 生滅と二極性

現代に生じる格差・二極化の広がりを如何に考えるか、生の良好性と健全性、生命とは何か。考えはあるか。生滅と二極、矛盾と平等、思慮と概念の導出の作用が生まれる。領域の良好な統治を遂げたい欲求が起こる。領域を主導したい願望を強めるに際し何を意図するか世界観と概念見識を集約し理解と納得、自主内発と共感から現象に反映、見識、概念、世界観、知識、政策、技能、

8-4 現況性

現況はどうあるか、歪な格差と二極を招いている。良好な見識や概念を引き出し納得と共感、実現の働きが乏しい結果性、生滅の短絡と二極の格差が出現、宗教と教育の作用が停滞しているか、歪化している、原因と結果の因果を見る。

Created by Universal Document Converter

8-5 技能性

問題であるという特定対象の非難を強めるか、良好な見識概念形成に力を注ぐか、利己的欲望が強まると前者の強権的政治性を増す。非難、批判、問題視、直接的除外、隠蔽、封殺、盗み取り、善の抑え込み、ピンハネ、盗み、権力、財力の歪な活用、表現の自由を妨げ、管理欲、支配欲、独占欲、政治欲の激しい、物理依存と力の支配、自己への非難を回避させる作為、一生懸命能力の高さを訴求し優位の願望と実現を図る態度、悪者を強調し自己優位と正当性を相対比較対照化、建設的というより削減的作為、小手先の策士性、程度によっては対処と削減の必要が増す。宣伝工作を過剰化し洗脳と領域の統治、財力任せに願望を強める、力みの強い人工性と計画性、特定人物や家系の神格化、閉鎖と統合、保身の強まり、如何なる心象心理感性が起こるか。性根の健全な監視と批判は肯定の力を増す。
真のストリッパーの巻。

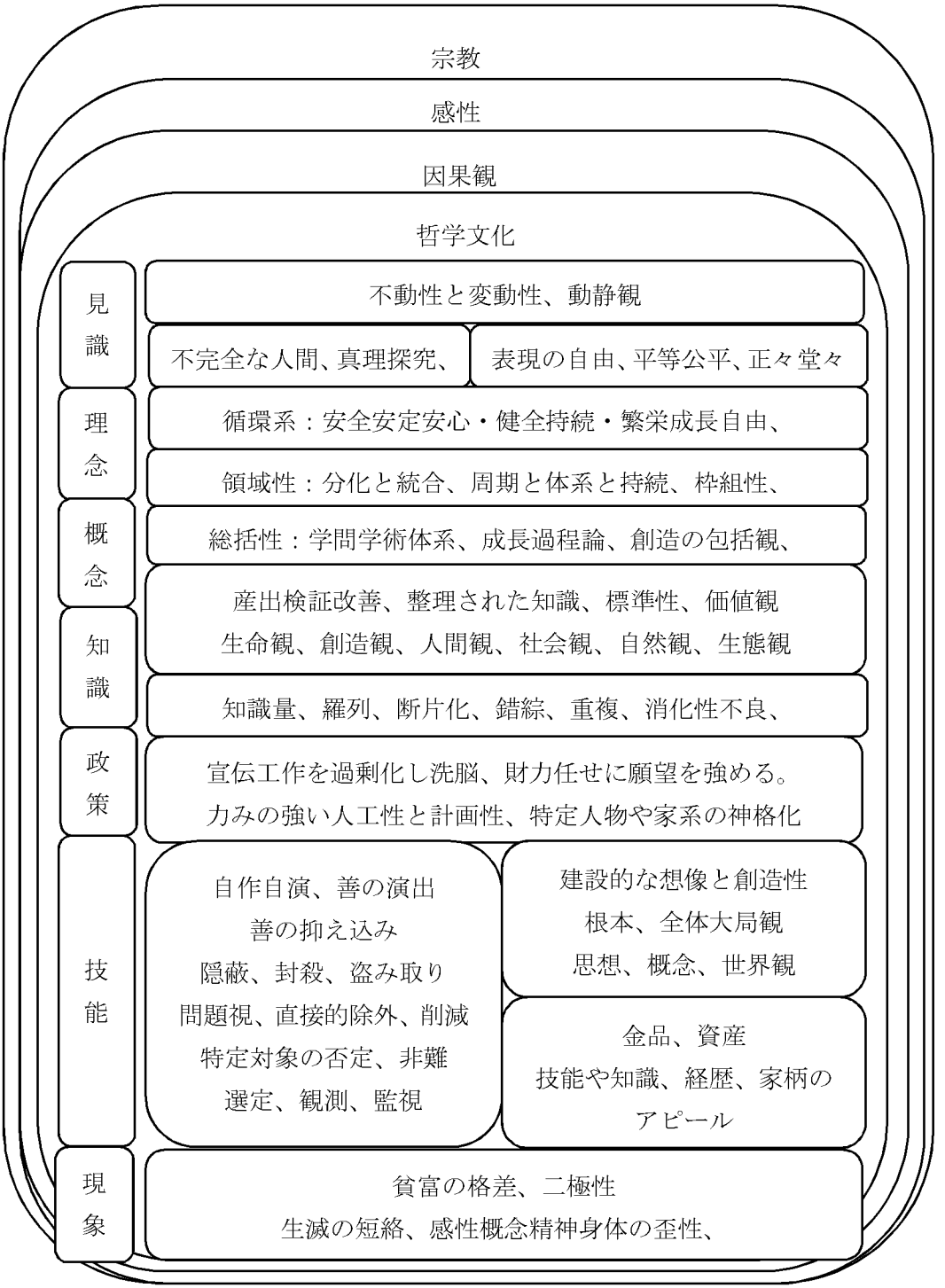
8-6 自作自演

被害を与えている実際が有り、それがばれそうになってきて被害性を演じ善の側に身を置き歪性を隠す自作自演の悪知恵と技能、情報操作を見せる性根の破綻、こそこそ裏で知識や技能を悪用、正々堂々、清々しいエネルギーと体質から外れ慢性化した生の病みを増す。上手く欺き賢いつもりが、まともな見識からは負の質実真相が鮮明化する。

8-7 宗教観、宗教の真相

以上のような観点と文脈に宗教の真相が浮かび上がる。冠婚葬祭、年中行事、イベント性に宗教を映す認識が進む。あるべき宗教性は生活の基礎基幹中心定常習慣に配置され全体大局に広がる。根源：生滅、根幹：感性概念精神身体、産出：個別特定全体、体系と周期と持続、動静、生の枠組、「不完全な人間」と「真理性の探究」「表現の自由」という理念を重んじ先んじた理念間の相関と序列、創造観、人間性、社会性、世界観、哲学文化、因果観が作られる。平等と公平を起源性にして正々堂々という概念と実際を具象する。

Created by Universal Document Converter



Created by Universal Document Converter